

AEON PRESS

Spring 2014 Vol32



PROFILE

堤 丈晴 氏 (つつま たけはる)

株式会社ジャパンタイムズ代表取締役社長
北海道札幌市出身、弘前大学人文学部卒。1988年株式会社ジャパンタイムズ入社、CRM室長、販売局長、管理局長、クロスメディア局長を経て、2012年より現職。一般社団法人共同通信社監事、IAA国際広告協会副会長。2013年10月より International New York Times との紙面提携を開始。デジタル・サービスの拡充も図りながら、政治経済からソフトパワーまで、日本の対外発信強化の方針を打ち出している。無類のジャズ好きで、趣味はサックス演奏。49歳。会社ウェブサイト www.japantimes.co.jp

グローバル人材にとって大切な素養

～メディア・リテラシーの重要性～

ニュースは「現実」を伝えるもの。テレビに映し出される出来事や、新聞雑誌が伝えることが、そのまま世の中の動きを捉えたものだと考える人は、意外と多いのではないのでしょうか。しかし、誤解を恐れずに言えば、実際はそうではありません。「メディアがうそをついている」ということではありません。媒体が異なれば、また発信する国や地域が異なれば、同じ出来事であっても、異なる視点で報じられることは、日常的に起こりうることなのです。伝えられる情報は、事実の中の一側面に過ぎず、「事実とはひとつでも真実は複数ある」というのが実際のところなのです。

近年、国内ではメディア・リテラシーの重要性が叫ばれています。「メディアを批判的に理解していく学習」として、北米で主に使われている言葉ですが、イギリスでは「メディア教育」と呼ばれ、古くから取り組みがなされてきました。残念ながら日本はやっと緒についたばかりで、世界的に見ても遅れていると言わざるを得ません。メディアの特徴やコンテンツの制作過程、客観性、そしてそのコンテンツが発信されることによってもたらされる影響や効果について理解する能力は、グローバル社会を生き抜く現代人において必携のスキルといえるでしょう。

私たちは、日々情報の洪水の中にいます。メディア環境研究所の調査によれば、マス4媒体とパソコン、スマホ等のインターネット媒体を合わせた1日のメディア接触時間は5時間53分にもなり、寝ている時間や仕事・学校へ行っている時間を除くと、ほとんどの時間メディアに触れていることとなります。それほどの時間を割いているわけですから、メディアによって伝えられるコンテンツを正しく判読し読み解いて、振り回されることなく、役立てる能力がいかに重要であるかお分かりいただけるのではないのでしょうか。

情報を吸収するために最も必要な資質は、好奇心を持つことです。しかしながら、時として、思い込みや先入観が我々の眼を曇らせることがあります。それには、意識的に複数のメディアから多様な視点を得ることが重要です。更に、国内メディアだけでなく、海外メディアの視点と対比してみることで、様々な「気づき」が得られるはずです。メディア・リテラシーを高めることは、これからのグローバル人材にとって、欠くことのできない大切な素養なのです。

～すべては生徒様の上達のために～ イーオン語学教育研究所

Viewpoint Second Edition発刊のお知らせ 三浦 麻里子

英語の基礎力がつき、ビジネスの場面からカジュアルな場面までと場面に応じた表現が身につけると、今度はさらに自分の「思い」を感じたままに英語でも表現したくなるのではないのでしょうか。

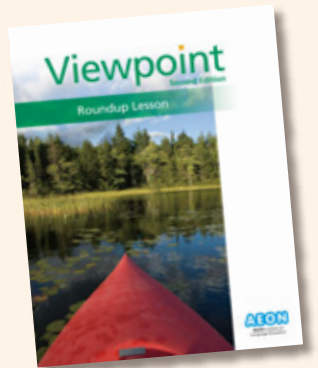
Viewpoint Second Editionでは、構文の持つ意味や用法を通して、より洗練された表現方法を学習していただけますので、自分の思っていることをありのまま英語にすることができるようになってきます。たとえば、次の文を比べてみましょう。

We could have checked the document more carefully.
「私たちは、もっとそのドキュメントを気をつけてチェックするべきだったね」

You could have checked the document more carefully.
「あなたは、もっとそのドキュメントを気をつけてチェックすることもできたのに」

このように、同じ「could have+過去分詞」の構文の文でも、「後悔」を表したり、「非難」を表したり、と意味が違ってきますが、このような意味や用法の使い分けを構文を使って意識的にすることができるようになってくるのです。

Viewpoint は「場面にふさわしい」英語からさらに「自分の気持ちをのせた」英語へと、皆様に大きな飛躍を経験していただくために開発されたコースです。皆様がこのコースを通じて、グローバルな Viewpoint (視点) に触れ、自分の「思い」を世界の人たちと通い合わせるできるようになりますことをスタッフ一同願っております。

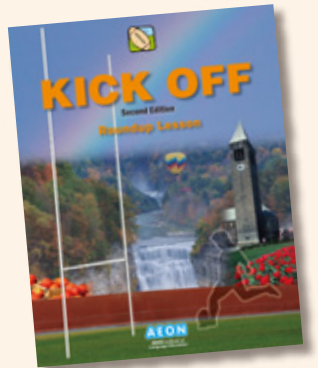


KICK OFF Second Edition発刊のお知らせ 堀田 和江

KICK OFF Second Editionは、英語でのコミュニケーションが初めての方でも、無理なくスムーズなスタートが切れるように工夫されたコースです。

さまざまな設定の中でその日の学習目標を練習することで、「どこで」「どのように」その構文や表現を使うのかが見えてきます。ただ単に記憶するタイプの「学習」とは異なり、実際の使用場面を想像しながら練習することで、レッスンはより楽しく現実的なものになってきます。例えば、語学を始めたときに必ず習う数字。現実の世界では、「どこで」「どのようにして」使いますか？数字を1から100まで言えるようになって、使う場所がなければなんとなく無駄な気がしませんか。例えば、03-9985-1214をzero three, nine nine eight five, one two one fourのようにひとつひとつの数字をハイフンで区切って読めば電話番号に。また、1214 Mason Street は twelve fourteen Mason Street のように、1214を下の桁からふたつずつに区切って読むと住所や部屋番号になります。このように、実際に使う場面や用途を知り、その場面で練習することで、「ただ単に記憶する」という勉強から解放され、コミュニケーションとしての英語を楽しく身につけることができます。

また、各レッスンはインプットからアウトプットへと徐々に移行していきます。ドリル形式の反復練習を十分に行った後で応用練習へと進みますので、毎回のレッスンが終わるころには、その日の学習目標を使ってご自分のことを話すことができるようになっていくはずです。「自分のことを英語で表現できる」という喜びは、大きな自信となり、今後の英語学習をしっかりと動機づけてくれるものとなります。このコースが、英語学習の順調なKick Offの一助となり、次のステップへの架け橋となりますように。



いよいよデジタルレッスンのラインナップが完成します！

「デジタルレッスン」は創業40周年に合わせて、イーオンが満を持して導入した新しいタイプのレッスンです。これまでのティーチングノウハウに、デジタルという先進性を取り入れたことで、テンポよく、見やすく、聞きやすく、変化に富むレッスンの構成と、より密度の濃いレッスン内容を追求するために開発を進めてきました。

2013年1月より全国253拠点すべてで一斉にパイロット稼働を始め、5月より本格導入に至りました。順次、対象クラスの拡大を図り、いよいよ2014年、ラウンドアップレッスンでの最上級クラス(ASPIRE)を除くすべてのクラスを「デジタルレッスン」に移行させます。

導入スケジュール

2014年1月	Get Set / Checkpoint
2014年5月	Line Up / Viewpoint
2014年9月	Kick Off



頭集 巻特

グローバルステージで活躍するイーオン生

今年3月に全国で劇場公開される映画「僕がジョンと呼ばれるまで」のプロデューサー／監督を務めている太田茂さんは、イーオン仙台駅前校に約10年通学する生徒様。その活躍の様子をご紹介します。

英語ができない悔しさから一念発起！



イーオン仙台駅前校で。担任のクリス先生と、太田さんの英語学習アドバイスを10年している教務主任のリエ先生。

ローカルテレビ局、仙台放送の企画制作部でプロデューサーをしています。映像に関係するコンテンツを企画・開発し、出演者やディレクターなど制作チームを組織して、放送や販売までをマネジメントする仕事です。大学時代に阪神淡路大震災で被災し、世の中に影響を与える仕事をしたいと思い、報道関係の仕事に就きたいと考えました。

98年に入社後、報道部に配属され、報道番組のディレクターや中国ロケの特番制作など、海外で取材をする機会がありました。その時、どの地域の取材であっても、「英語さえ通じれば」という場面が多く、悔しい思いをしたことは一度ではありませんでした。その後、02年に制作部に異動し、長編ドキュメンタリー番組の担当になったときに、意を決して、イーオン仙台駅前校に入学しました。

イーオンで学んだ英語が、世界で活躍するチャンスをくれました！

私は仕事やプライベートで出会う外国人とコミュニケーションが取れるようになりたいと考え、英会話を学びたいと考えました。握手のタイミング、ハグはいつするのか、という文化的な面も含めた経験も必要だと思いましたので、本や教材を買って自宅でやるものではない、との直感がありました。

最初に上達を実感したのは、始めて8カ月目頃です。ある番組で、外国人にご出演いただいたのですが、私の英語でのディレクションを理解してくれて、ジョークにも笑っていただき、自分の英語がちゃんと伝わっている、と嬉しくなりました。イーオンには3つの魅力があると思います。1つ目は「スタツフの皆さんが醸し出す一体感」です。いつも我が家のように迎えてくれますし、私の近況を他の先生もよくご存知なのにはいつも驚きます。2つ目は「教材が練りに練られている」ことです。

私は自宅にイーオン以外の英語教材は1つもありません。他の教材に浮気をしたくないので、全部捨ててしまいました。英語での商談でもイーオンのテキストの慣用語がどんどん出てきます。生きた英語を研究し尽くしていると実感する毎日です。3つ目は「英語の勉強の仕方を相談できる」ことです。英語が苦手な人は、自分も含めて、「英語の正しい勉強方法を知らない」のだと思います。私はイーオンの日本人の先生の勧めで、1人で運転する時は付属CDを再生して、同時に喋りながら通勤していた時期があります。今、思うとかなり効果的だったように思います。

東北大学・川島教授との出会いから、映画「僕がジョンと呼ばれるまで」製作まで

仙台放送で本格的な認知症取材が始まったのは、私が入社する前の約20年前に遡ります。そして03年に東北大学の川島隆太教授の研究にいち早く注目。川島教授が提唱する「読み・書き・計算が脳を活性化させる」という研究成果を元に、04年からお茶の間で簡単に脳のトレーニングが出来る世界初のミニ番組『川島隆太教授のテレビいきいき脳体操』を制作し、現在も週5日放送しています。私は、07年に現在の企画制作部に異動になり、これら脳科学系のコンテンツを中心に、番組制作と海外への展開、

マルチメディア化を担当しています。

今、高齢化と共に認知症患者が世界的に急増していますが、根本的な治療法はまだ確立されていません。そこで、川島教授が中心となって開発した脳のトレーニング手法を応用して、認知症の予防・改善が可能なのか、海外初の実証研究が米国で行われることになりました。

私たちも1年間の米国取材を行い、仙台放送初の長編映画、しかも全編英語、という異色のドキュメンタリー映画『僕がジョンと呼ばれるまで』が完成しました。

世界の映画祭が涙した長編ドキュメンタリー映画「僕がジョンと呼ばれるまで」

監督：風間直美・太田茂 プロデューサー：太田茂
製作・配給：仙台放送
2014年3月より東京都写真美術館ホールほか全国公開



©2013 仙台放送

舞台は、自然豊かなアメリカ・オハイオ州の介護施設。生きる希望さえ失いかけていた認知症の老年寄りが、日本で生まれた認知症改善プログラムをきっかけに笑顔や自分自身を取り戻すまでを描いた感動の物語。

認知症のエブリン（左）は、毎日、職員のジョン（右）から自己紹介されるが、5分後には彼の名前を忘れてしまう。でも、毎日「読み・書き・計算」に挑戦するようになって数カ月後、エブリンに驚きの変化が…。



※上映エリアのスクールで、特別割引券を差し上げています。



クリーブランド映画祭で英語で挨拶する太田様

今回の映画製作の舞台は、オハイオ州の介護施設でしたが、明るくお喋り好きな方が多く、立食パーティーが大好きで、参加すると、いろいろな方と歓談しなければなりません。当然、英語での自己紹介だけでなく、日本の事情をご紹介する機会も多く、イーオンの「ラウンドアップレッスン」でのトレーニングが、私を何度も救ってくれました。

また国際映画祭では、上映直前に制作者が観客の前で挨拶するのが慣例なのですが、今回、受賞にノミネートされた映画祭でのスピーチの準備のために、「プライベートレッスン」をお願いしました。観客の前での挨拶や、映画の紹介、想定される質問への気の利いた回答など、出発前に何度もトレーニングして臨みました。結果的に、たくさんのお名譽ある賞をいただけるのは、皆様のご指導のおかげだと思っています。

元々は英語が苦手だった私が、社会人5年目に重い腰をあげてイーオンに入学したのが03年。そこから英会話の楽しさを学び、10年後に英語で長編映画を製作する機会に巡り合いました。今日があるのは、サポートいただいた多くの方のおかげですが、大きな可能性の扉を開いてくれたのはイーオンとの出会いだったと思います。イーオンで学ぶ全ての皆様にと皆さんの可能性があると思いますので、是非、扉を開いていただきたいと思います。上達の遅い私ですが、「英語は上手下手より、伝わること」が大事」と自らに言い訳しながら（笑）、今後もイーオン生活を満喫していくつもりです。

AEON My Style

仲間がいるから、がんばれる!
生徒さまの勉強法紹介

体験を糧にさらなる英語力向上!

私がイーオンに通おうと決めたくっかけは、中学2年の夏に行ったマレーシアへの市からの海外派遣でした。たった1週間でしたが、異文化というものに初めて触れ、衝撃を受けたのを今でも鮮明に覚えています。今からは全然想像できませんが、英語なんか大嫌いでも全話することもできなかったのも、現地ではコミュニケーションが取れないことに苛立ちを感じました。この悔しい思いから、英語学習に前向きに取り組むようになりました。

私の勉強法は頑張りすぎないことです。イーオンでの会話の学習に加え、好きな洋楽を聞いたり、文法書を読み直したり、嫌にならない程度に単語帳を開いたり、とりあえず継続的に勉強をするように心がけました。あれから7年ほどたちました。2週間から1か月の短期ではありませんが、ニュージーランド、カナダ、アイルランド、ドイツへと短期留学を果たしました。それぞれの国の文化はやはり違うもので、カルチャーショックというよりもただただ驚きの連続でした。また英語のアクセントもそれぞれ違い、特にアイルランド英語に最初は少し苦労しました。苦しい体験もたくさんしましたが、それも含めてとても貴重な体験でした。これらの体験を糧にこれからもさらなる英語力向上に向け、英語学習に取り組んでいきたいと思ひます。次の目標は英検準1級とTOEICテスト900点を取る事です!



安井 泉帆 様(大学生)
岩倉校[愛知県]



日比野 和彦 様(会社員)
右京 くん(年少)
橋本校[神奈川県]

英語が家族のコミュニケーション!

私がイーオンに入学したきっかけは、転職後、外国人の方との会話、メールでのやり取りが必要になり、英語力の強化をしようと思ったからです。

イーオンに通い始め英語に対する抵抗がなくなり、仕事で英語を使用する以外でも洋画や洋楽に興味を持つようになりました。現在の目標は外国人の方と物怖じせずスムーズに会話が出来ようになること、会話のインシアティブをとること、会話を止めないアイディアと英語力を身に付けることです。また私が英会話を始めてから、息子には幼少期から英語に慣れさせ、シャイな性格を直してもらいたいと思つたようになり、将来の国際人として社会にできるのにも役に立てばという気持ちからレッスンもスタートさせることにしました。

息子にとってもイーオンは保育園とは別の学習、交流の場になり、毎週通うことを楽しみにしています。休日に出かけた際、蝶々を見て「バタフライ」と英語を使っていたのには驚きました。現在では家で英語で会話してみたり、一緒に勉強したりと、英語が家族のコミュニケーションの一つになっています。

海外からの観光客の方に英語で手助けをしたい!

海外旅行に行くといつも英語が上手く伝わらない、という状況でとても悔しい思いをしたことを鮮明に覚えています。今思えば、英語ができないうことで旅を半分以上損していたように感じます。「どうせ行くなら英語を話したい」とそんな思いが英語を勉強するきっかけとなり、以前は別の英会話スクールやカフェレッスンなどで勉強をしていました。その時は外国人のお友達も出来、英語に触れる機会は少しずつ増えてきたのですが、自己流で勉強をしていたので、「本当にこの勉強方法で上達するのかな?」と途中で不安になり、また、モチベーションの低下などで英語の上達に伸び悩み、一時期英語から遠ざかってしまいました。しかし英語の勉強をやめてしまうとすぐに話せなくなってしまうので、どうやって勉強をしようかと悩んでいたときに、友達の紹介でイーオンを知り、個人のレベルに合わせてレッスンとテキストが充実していたので、イーオンに入学を決めました。スタートした頃は周りの生徒さん達についていけない不安でしたが、スタッフの皆さんや先生方がとても優しく親身になって指導やサポートをしてくれる為、今では楽しみながらもすっかり上達を実感することができています。

さらに最近では「もっと英語で話したい」と気持ちが高まり、モチベーションも最初の頃より上がっています。以前は「世界中の人と話したい」「もっとネイティブの友達を作りたい」と思っていました。最近、海外からの観光客の方々に英語で手助けもできたという思いが、と思うようになりました。【継続は力なり】という言葉があるように、英語を勉強する上でこの言葉は本当に大切だと感じています。仕事をしながら自分ひとりで勉強を継続するのはとても難しいことだと思ひますが、イーオンには頼れる教師とクラスメイトがいるので、これからも夢に向かって一緒に頑張っていきたいと思ひます。



権田 ちえ 様(会社員)
博多校[福岡県]

将来の夢は「海外で人の役に立ちたい」

私は、小さいころから外国人と話す機会があつて、頭の中では言いたいことが決まっていますが、話すとなかなか上手く英語で伝えられず、挨拶で終わる事が多くありました。いつも会話が続いたら楽しんだらうなと思っていました。また、私の将来の夢は、「海外で人の役に立つ仕事をした」という事もあり、スピーキング力は欠かせないと思ひました。そんな中で、母と考へて、イーオンに通うことを決めました。

毎回のレッスンがとても楽しく、時間があつという間に過ぎていきます。先生方はとても優しく、丁寧に教えてくださるので、「勉強をもっともっとがんばろう」という気持ちになれます。通い始めて、自分の中で英語に対する見方が変わりました。どうやったらもっとスムーズに会話が進められるかなど今までになかった気持ちが生まれ、海外ドラマや映画にも興味を持つことができました。進路が決まらず、目標もないまま、今まで英語を勉強してきましたが、イーオンで親身になって相談に乗ってくれる先生やスタッフの方、両親のおかげで、夢も見つかり、今はその夢に向かって頑張っています。

夢は、大学留学です。そのためには、英検2級のA判定とネイティブの人にも通用する英語力を身に付けることが今の私の目標です。英検2級のA判定をとるのはなかなか難しいけれど、努力すれば絶対に取れると思ひています。ネイティブの人にも通用する英語力を身に付けるためにイーオンのレッスン一回一回を大切に、英語力を伸ばしていきたいと思ひます。今こうしてイーオンで英語を学び、色々な人と出会う事ができ、目標に向かって頑張っているのは、イーオンの先生や両親のおかげだと思ひています。



宮本 万有 様(高校生)
徳山校[山口県]

英語を使って、自分自身の可能性を広げたい。

私がイーオンに通ったきっかけは、会社の昇進条件にTOEICテストスコアが500点以上必要だったことと、会社が、海外進出に力を入れており、海外の部署に配置転換される同僚達を目の当たりにし、「次は自分の番かもしれない」と思つたようになったことでした。

学生時代、英語が最も苦手だった私は、レッスンについていくのがやっとな状態、仕事との両立も不安に感じていました。しかし、クラスメイトの方の学習法を聞き、教師の方やカウンセラーの方の親身なアドバイスのおかげで、昇進条件に必要な500点を突破し、1年で約200点TOEICテストスコアをUPさせることができました。最も効果的な学習法だったのは、英文のオーバーラッピングとシャドーイングでした。最初に習ったときは、「本当に英文のCDの音を声に出して読むくらいで、上達するのだろうか?」と半信半疑でしたが、通勤時間や仕事の合間を利用して始めてみたところ、2ヶ月後に受けたTOEICテストでスコアが飛躍的に伸び、自分自身が1番驚きました。イーオンで学んだ学習法は適切で効果的だと感じた瞬間でした。また、会社のイベントで自社製品のパンフレットを見た外国人のお客様からの英語での質問に対し、学んだフレーズを思い出し、英語で返答することでお客からの信頼を得ることができました。

今後の目標は、海外の部署に異動し、海外の事業に携わりたいと考えております。その際、英語はコミュニケーションに必要不可欠なツールとなります。そのためにも、イーオンでもっと英語力を磨き、様々な業務に挑戦し自らの可能性を広げていきたいと思います。

英語を自分の強みとして生かしたい。

50才を過ぎた頃から、人生後半戦での、何か核となるようなものが無いかと探していました。当時、勤めていた会社の福利厚生の中にイーオンでの英会話学習サポートがあるのを見つけ、「これだ!」と思ひ「50の手習い」宜しく再学習を始めました。

就職してから、英語とは全く無縁な生活を送ってきた私にとってそれは中学英語を一からやり直す様なものでした。勉強法も昔とは随分違っており戸惑いもありましたが、先生方からオーバーラッピング、シャドーイングなどの勉強法を教わり、実践してきました。その中でも私はディクテーションが一番好きでした。レッスンの予習は必ずダイアログのディクテーションから始めました。一語一語、一文一文、聞き取ったものをノートに書いていき、最後まで聞き取れなかった箇所はカタカナでその音を書き留めていきました。一時間以上かけていたと思ひます。集中力、音と音のつながり、文法に基づいて類推する力などを養うことができました。また、TOEICテストや英検に対し目標を立て、チャレンジして行くことも英語学習へのモチベーションを高めて行くために、とても有効な手段だと思ひます。

私自身もTOEICテスト900点、英検1級合格という目標を立て、学習を継続し達成することができました。現在は通訳案内士試験合格を目指してイーオンで特訓しています。今後はさまざまなイベントでボランティア通訳として貢献したいという新たな目標もでき、もっと勉強しなくてはという気持ちを一層強くしています。



藤沢 将人 様
高崎モンテレー校[群馬県]



山田 佳範 様(会社員)
なんば校[大阪府]

第24回 TOEIC®テストコンテスト 入賞者の声

Contest

ハイスコア
コンテスト

のびのび
コンテスト

TOEICテストの高得点を取得した方や点数が伸びた方をピックアップ!



邦本 理夫 様(会社員)
調布校 [東京都]

ハイスコア
コンテスト 1位

990点満点

念願の満点を取得することができました。

TOEICテストで念願の満点を取得することができ、またイーオンTOEICテストハイスコアコンテストで全国1位になることができ、大変嬉しく思っています。

TOEICテストは過去に何度か受験していましたが、最近ハイスコアが停滞し、これ以上のスコア向上は望めないかな、と半ば諦めかけていました。そんな時にイーオンのスタッフや教師の方から「今度のTOEICテストコンテストで満点を目指しましょう!」と言われ、お勧めの教材なども教えて頂き、再度モチベーションを上げて挑戦できたことで、今回の結果に繋がったと思っています。

TOEICテストの勉強法としては、リスニングは本番よりも高速で再生される模擬問題を、聴き取れるようになるまで何度も繰り返し聴きました。これで本番のリスニングに余裕をもって臨むことができました。またリーディングは、文法の正確さに重点を置いて問題集を何度も解き、間違えた理由を正しく理解できるように努めました。本番では最後に丁寧に直しを行い、ケアレスミスがないかを確認しました。

満点を取得したことを報告した時に、イーオンのスタッフや教師の方々が、我が事のように喜んでくれたのが印象的でした。スタッフや教師の方々は常にフレンドリーで、楽しく学び続けられる環境があるおかげで、英語学習に対するモチベーションを維持できているのだと思います。また、普段英語で会話をする機会が少ないため、会話力の維持、向上という点でも非常に役立っています。今回TOEICテストで満点を取得することができましたが、自分の英語力にはまだまだ課題があると思っています。今後も継続して学習を続け、更なる英語力向上を目指したいと思います。

毎日続けることの重要性。

このたび、第24回TOEICテストのびのびコンテストにおいて全国1位と光栄にもこのような機会を頂きました。

自分の場合、全体的な底上げが必要な状況からのスタートでしたが、苦手意識の強かったPart2とPart5に重点を置いて取り組みました。Part5対策は600点レベルのPart5向けのテキストを熟読し、基礎的な内容を確認しました。その後、730~800点レベルの問題集に取り組み、得点源とすることが出来ました。

リーディング全体のタイムマネジメントについても先生方からアドバイスを頂いたり、Part5は正解率を維持しつつ短時間で回答できるように取り組みました。結果として、Part7の時間を確保でき、リーディング全体のスコアアップにもつながりました。Part2は、Part2の会話をひたすら多聴しました。例えば、それまではiPodで音楽を聴いていた時間を Part2の会話を聞く時間に充てました。聞くと言っても流しながら聞くのではなく、1問1問問題を解く意識を持って聴くようにしました。これは短い時間でも毎日続けるようにしましたし、今も続けています。1日、2日でも間が空くと急に英語が聞こえなくなってしまう経験があったので、毎日続けることが重要なのかなと思います。あと、Part3,4も含めてですが、試験よりも少し速いと感じるくらいのスピードの会話を多くリスニングすることも効果があったと感じました。

今回の表彰には正直驚いておりますが、イーオンの先生方、スタッフの皆様には、レッスンの前後にもご相談にのって頂いたり、叱咤激励頂いたりしました。改めて御礼申し上げます。



中林 幸成 様(会社員)
三宮校 [兵庫県]

のびのび
コンテスト 1位

515点⇒795点

280点UP

毎週のレッスンを楽しみます。

私がTOEICテストを初めて受験したのは、イーオンに通い始めてから約2ヶ月後の2012年7月でした。結果は440点。ほとんどのパートで平均点以下、特にリーディングだけでは155点で自分の英語力の弱い部分を目の当たりにしました。また、英語が得意な友だちに「TOEICテストは勉強しなくても500点くらいとれるでしょ」と言われた一言がかなりショックで、絶対にスコアアップして見返してやろうと思いつき、目標を600点に定めTOEICテストの勉強をスタートしました。

イーオンの先生にリーディングセクションの解き方を教えてもらい、それを元にTOEICテストの問題集で長文を何度も解くようにしました。勉強していくと出題傾向もなんとなく分かるようになり、勉強が楽しくなってきました。また「分からない問題に時間をかけずに1つでも多くの問題を解くようにする」というアドバイスをもらい、時間内でより多くの問題を解く、というスピード感覚も身についたように思います。

私は単語を覚えるのが苦手なため、単語はTOEICテスト向けの基礎単語集で500語ほどをとにかく繰り返し覚えるようにしました。リスニングセクションはTOEICテストのための勉強はほとんどせず、日々のレッスンの会話の部分を何度も音読・シャドーイングし、テキストを見なくても会話が出てくるくらいまで繰り返し練習しました。その後受けたTOEICテストの結果は目標を大きく上回る700点!日々の積み重ねと毎週のレッスンを楽しみ、この結果につながったのだと思います。

いつも応援してくれ、結果が出た時に一緒に喜んでくれる富士校の先生方、マネージャーに感謝しています。



東郷 舞子 様(会社員)
富士校 [静岡県]

のびのび
コンテスト 3位

440点⇒700点

260点UP

時間を有意義に活用しています。

最終目標は満点の990点ですが、今年受験したTOEICテストに向けて特に猛勉強をしたわけではありませんでした。ただ、日常生活の中で見つけた時間の中でできるだけ英語やTOEICテストに触れていくようにしました。

英字新聞を毎日読もうと心掛けていますが、じっくり読もうとすると自分に負担がかかると感じたため、通勤途中や外出時の移動時間で読むようにしています。以前読んだTOEICテストの参考書に、「記事を多く読むことがいい事ではなく、1つでもいいのでジックリと内容を理解することを心掛けた方が良い」とありましたので、気になる表現や単語があれば、メモを取ったり調べたりし、焦らず内容を理解するように読むようにしています。

リスニングは英字新聞を読むのと同様に、移動中にiPodに入れたもので勉強していました。よい勉強方ではないかもしれませんが、思いついた時にTOEICテストの復習ができるので、自分を追いこまずに解くことができました。暇があれば、海外や日本のテレビで英語ニュースを聞くようにしています。また、問題集や過去問は時間をかけて解くのがベストだと思いますが、私は時間があれば解くようにしました。何冊も問題集を買うことはせず、同じ問題集を何度も解き、間違えた問題に重点を置いて復習していました。

元々、TOEICテストは890点以下を取ったことはありませんが、それでうぬぼれてしまうと、英語力が下がってしまうことも事実です。毎週受けているDiscussionクラスは、レベルの高い方が多いので、先生方や生徒さんとお話することで刺激を受け、自分の英語はまだまだだと、やる気を奮い起こす良い機会となっています。



武本 彩 様(会社員)
五反田校 [東京都]

ハイスコア
コンテスト 2位

985点

TOEIC®テスト コンテストとは?

全国のイーオン共通で実施している、TOEICテストのスコアを競うコンテストです。入賞者には奨学金として下記金額相当の商品券をプレゼントしています。詳しくはお通いのスクールスタッフにお尋ね下さい。

ハイスコアコンテスト TOEICテスト800点以上を目指します!

のびのびコンテスト 1回目と2回目のスコアの、のび幅を競います!

900点以上	10,000円相当 (900点以上で上位3名はプラス10,000円)
850点以上900点未満	5,000円相当
800点以上850点未満	3,000円相当

全国1位	30,000円相当<1名様>
全国2位	20,000円相当<1名様>
全国3位	10,000円相当<1名様>

※上位100名様までを上記の通り表彰します。

※上記を含め上位30名様を表彰

◆第25回TOEICテストコンテストの結果発表は2014年5月予定です。
◆第26回TOEICテストコンテストの受付は2014年2月の予定です。スクールよりご案内させていただきます。

TOEIC is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS).
This publication is not endorsed or approved by ETS.